

# 国家戦略特区ワーキンググループ ヒアリング（議事録）

---

## （開催要領）

- 1 日時 令和7年5月15日（木）17時00分～18時06分
- 2 場所 内閣府8号館5階 共用C会議室（オンライン会議）
- 3 出席

伊東 良孝 内閣府特命担当大臣（地方創生）

鳩山 二郎 内閣府副大臣

## <WG委員>

座長	中川 雅之	日本大学経済学部教授
座長代理	落合 孝文	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 プロトタイプ政策研究所所長・シニアパートナー弁護士
委員	安念 潤司	中央大学大学院法務研究科教授
委員	大槻 奈那	名古屋商科大学大学院 マネジメント研究科教授 ピクテ・ジャパン株式会社 シニア・フェロー
委員	澁谷 遊野	東京大学大学院情報学環准教授
委員	菅原 晶子	公益社団法人経済同友会常務理事
委員	堀 天子	森・濱田松本法律事務所パートナー弁護士
委員	堀 真奈美	東海大学健康学部教授
委員	安田 洋祐	大阪大学大学院経済学研究科教授

## <自治体等>

熊谷 俊人	千葉県 知事
田中 泰史	千葉県 総合企画部 交通・規制緩和担当部長
小泉 一成	成田市 市長
関根 賢次	成田市 副市長
篠塚 岳史	成田市 企画政策部 部長
松本 整	成田市 企画政策部 国家戦略特区推進課 課長
神谷 俊一	千葉市 市長
佐藤 正則	千葉市 総合政策局未来都市戦略部 国家戦略特区推進課 課長
田中 健	東京都 政策企画局 特区・規制改革担当部長

林 さやか 東京都 政策企画局政策部  
特区・規制改革担当課長

黄川田 愛 神奈川県 いのち・未来戦略本部室 事業推進担当課

<省庁等>

川島 雄一郎 国土交通省 航空局  
航空ネットワーク部首都圏空港課 課長

<事務局>

石坂 聡 内閣府 地方創生推進事務局 局長

河村 直樹 内閣府 地方創生推進事務局 次長

安楽岡 武 内閣府 地方創生推進事務局 審議官

水野 正人 内閣府 地方創生推進事務局 参事官

松平 健輔 内閣府 地方創生推進事務局 参事官

鷹合 一真 内閣府 地方創生推進事務局 参事官

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議事 成田空港の機能強化を契機としたビジネス拠点形成と新事業創出に向けて
- 3 閉会

---

○水野参事官 それでは、ただいまより、国家戦略特区ワーキンググループヒアリングを開始させていただきます。

本日は、伊東内閣府特命担当大臣、鳩山副大臣御参加の下、東京圏の区域指定（千葉県全域の追加）に関します自治体ヒアリングとして、千葉県の熊谷知事、東京圏の関係自治体である千葉県成田市小泉市長、千葉市神谷市長、東京都、神奈川県、そして、国土交通省航空局の皆様にご参加いただいております。

なお、鳩山副大臣は業務のため途中退席でございます。

本日のヒアリングと資料及び議事につきましては、6月上旬に想定されております国家戦略特区諮問会議で審議されるまでの期間を目途として非公表とさせていただければと考えております。

中川座長、よろしいでしょうか。

○中川座長 了解いたしました。

○水野参事官 ありがとうございます。

それでは、以降は、中川座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○中川座長 それでは、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

早速ですが、本日のヒアリングを開始いたします。本日は国家戦略特区として目指す取

組の全体像や意欲等につきまして、千葉県熊谷知事から御説明をいただきます。

早速ではございますけれども、熊谷知事、お願いいたします。

○熊谷知事 千葉県知事の熊谷でございます。今日は機会をいただきましてありがとうございます。また、昨年8月の特区諮問会議以降、委員の皆様を始め、関係の皆様には、私ども千葉県の提案について様々な視点から貴重な御助言をいただきまして、感謝を申し上げます。

それでは、資料に沿いまして、千葉県が県全域におきまして国家戦略特区を活用して何を目指すのかという視点から御説明をさせていただきます。

1 ページ目、千葉県が特区を活用して目指す姿の全体像をまとめたものとなります。まず、私ども千葉県のポテンシャルとして、我が国最大の貿易港であり物流面でのインパクトが大きい成田空港を持つところが挙げられます。また、私ども千葉県は各産業の産出額がいずれも全国トップクラスでありまして、そういった意味で日本の縮図ともいえると思います。幕張新都心、京葉臨海コンビナート、東京大学、千葉大学など、多くの研究開発拠点も集積されております。こうしたポテンシャルに加えまして、現在、成田空港では、私どもは第2の空港開きと申し上げておりますが、そうした大規模な拡張事業が進行中であります。また、圏央道の県内区間が来年度に全線開通するなど、道路ネットワークの整備も加速しております。

こうしたことを契機といたしまして、その効果を国家的視点から最大化するためには、人、モノ、財を呼び込み、産業拠点を形成するとともに、成長産業におけるイノベーションを促進していくことが必要不可欠と私も認識をしております。千葉県としてはそのための取組を千葉市、成田市とともに、東京都、神奈川県さんとも連携をしながら、東京圏の国家戦略特区の一員として推進し、世界をリードする産業拠点の形成につなげてまいります。

4 ページ目、特区検討の契機となりました成田空港の機能強化、そして、東京圏国家戦略特区の目標である国際的なビジネス拠点の形成、イノベーション促進を通じた国際競争力のある新事業創出の三つの柱について、関連する取組と特区による規制改革を目指す事項をまとめたものとなります。詳細は次のページ以降で御説明をいたします。

5 ページ目以降は、一つ目の柱である成田空港の機能強化とその効果を高めるための特区などによる取組をまとめたものとなります。

6 ページ目、成田空港の機能強化による効果をまとめたものになります。成田空港は現在厳密に言えば1.5本というような状態だと思っております。それが滑走路の新設などによりまして、アジアの空港とようやく戦える3本の滑走路、加えて、発着容量が年間30万回から50万回へと飛躍的に増加をいたします。

7 ページ目、広域的な道路ネットワークの現状をまとめたものになります。圏央道が来年度に開通いたしますと、県内区間が全線開通し、成田空港と羽田空港が圏央道とアクアラインで直接つながるといった状況が生まれます。

9 ページ目、国際航空物流機能の現状をまとめたものになります。右下の地図で示しておりますけれども、空港の隣接する物流エリアに関連いたしまして、令和3年に私どもから農地規制関係の特区提案を行い、ワーキンググループで御議論いただいた結果、地域未来投資促進法を活用した農地規制の弾力化が実現いたしました。我が国の玄関にふさわしい大規模な開発プロジェクトにつながったものでありまして、改めて感謝を申し上げたいと思います。

10、11ページ目につきましては、本日、小泉市長に参加をしていただいておりますが、成田市における取組を紹介したものとなります。

12ページ目、成田空港の機能強化に資する特区提案の全体像をまとめたものです。目下の課題であります用地の不足につきましては、農地規制の弾力化によりまして大きく進展いたしました。もう一つの課題であります人材不足について、昨年ワーキンググループにて御議論いただきまして、貨物取扱に係る外国人材の受入拡大を特区により実現させていただける運びとなりました。今後とも関係機関と密接に連携をしながら、民間投資を呼び込む環境づくりに取り組んでまいります。

13ページ目以降が二つ目の柱である国際的なビジネス拠点の形成に向けた取組をまとめたものとなります。

14ページ目、取組の全体像を表したものです。私ども千葉県としては将来の県経済を支えるエリアを各地に創出し、更なる企業誘致、投資を呼び込むことに加えて、アジアそれぞれの各国が進める空港拡張、また、国家的な開発に負けないような産業拠点の形成にスピード感を持って取り組んでいかなければならないと考えています。

具体的な取組として、まず、空港の強みを生かして集積を図る分野として、昨年12月に地域未来投資促進法に基づく基本計画に航空宇宙などの5分野を明記いたしました。各分野の特性に応じて特区提案、または他の施策を講じておりますが、特区関係ではこれまでに農業、そして、観光分野に関わる提案をさせていただきました。

19ページ目、戦略的な企業誘致の一例を御紹介しております。千葉県経済を牽引するビジネス拠点の形成に向けまして、幕張新都心、柏の葉、アクアライン着岸地などの地域と、地域のそれぞれの特性に応じて集積を目指す産業分野とでターゲットを明確にした上で、対象となる立地企業に対して補助金を上乗せするなどの施策を今年の4月に講じたところであります。

このようなビジネス環境整備に向けた取組・提案と併せて、21ページ目でございますけれども、福祉、それから、災害分野など、それぞれのビジネスを支える生活環境に資する提案をさせていただきました。今後も投資を呼び込むために、必要な規制緩和について県内それぞれの拠点の意見を吸い上げながら、今後も積極的に提案をしていきたいと考えております。

22ページ目以降が三つ目の柱であるイノベーションの促進を通じた新事業の創出に向けた取組をまとめたものとなります。

23ページ目を取組の全体像をまとめております。千葉県としては成田空港の産業拠点形成はもとより、京葉臨海コンビナートの競争力の維持向上、成長分野におけるイノベーションの創出に資する取組を進めてまいります。

24ページ目、医療機器分野における取組を示したものとなります。千葉県には国立がん研究センター東病院や千葉大学などが立地しており、これらとも連携をして、この分野のイノベーションを促進してまいります。今回、医工連携をさらに推進をしていく観点から、AIやデータサイエンスなどの知見を有する医師の養成に資する提案をさせていただきました。

25ページ目、こちらは創薬の分野における取組を示したものです。柏の葉、そして、千葉・かずさ、これらはバイオ産業の拠点として東京圏の他の地域とも連携しております。こうしたネットワークを活用しつつ、新たに立地する企業から意見を伺ってイノベーションの促進につながる提案を現在検討中であります。

27ページ目、本日、神谷千葉市長に参加をさせていただいておりますが、千葉市における取組を紹介したものです。

28ページ目、こちらでは新産業の創出に向けた特区提案の全体像を示しております。障壁となる規制に対して現場の声を踏まえた提案を行ったところであり、今後も企業や大学などとの連携を通じまして積極的な提案につなげてまいります。

以上、3本の柱について御説明をさせていただきました。

次に29ページ目、この特区を活用した投資環境づくりを積極的に進めるための体制をまとめたものでございます。まず、庁内の体制でありますけれども、今年度から戦略特区や規制緩和を担う部長、それから、課長職、さらには専門部署を設置いたしました。将来にわたって継続的・積極的に提案を行う体制を整備してまいります。

また、昨年8月の諮問会議における御指摘も踏まえまして、千葉市、成田市との協議を重ね、県域全体の推進体制を構築いたしました。千葉県の提案に御理解・御協力をいただいた両市に改めて感謝を申し上げます。加えて他の市町村とも連携して、地域のニーズを踏まえながら継続的に取り組んでまいります。さらに成田空港周辺や柏の葉、そして、京葉臨海コンビナートにおける既存の団体とも連携が進んでおりまして、特区提案につながる規制緩和の芽をしっかりと探してまいります。

32ページ目以降、指定基準との適合性をまとめております。時間の都合もございまして、主なものだけ説明をさせていただきます。

まず、32ページ目の3段目の先進性・革新性につきまして、成田空港の機能強化を踏まえた産業拠点の形成、これ自体がアジアの主要空港との競争に向けた先進的な取組と考えております。集積をするべき産業、そして、対象地域を明確化して、東京圏で進められている取組に結び付けることで、東京圏全体の取組を加速させると考えております。

33ページ目の最後の段の包括性・総合性でありますけれども、幅広い成長分野と先進的な複数の地域において産業集積や生活環境の整備に資する取組を進めており、千葉県全域

を東京圏の一部として指定していただくことによって、事業者の投資の判断に好影響を与えることが期待できると考えております。

最後になりますが、特区制度活用に関する千葉県の考え、また、決意を書かせていただいています。今回の提案につきましては、いずれも東京圏の国家戦略特区の目標実現はもとより、我が国の国際競争力の強化に貢献すると考えております。成田空港の機能強化を契機として、国内外からの投資を呼び込める環境づくりを進めていくことは、首都圏の一翼を担い、日本最大の貿易港、また、全国有数の産業拠点を有する千葉県としての責務であると考えております。我々は成田空港を持っているという観点で、私は世界に最も近い県としての自負を持つとういうことをいつも申し上げております。成田空港が拡張していく中で、私ども千葉県はアジアと戦っていかなければいけない。それから、アジアの成長を取り込んでいかなければいけない。こうした視点であらゆる関係団体が戦略を考えるようになってきたところでございます。

こうした問題意識の下で、成長分野への投資を呼び込んで、民間の力を最大限に引き出していくことで、東京圏の活性化に貢献してまいりたいと思っております。官民一丸となって千葉県は取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○中川座長 ありがとうございます。

千葉県全域の区域指定について、事務局から補足説明があるとのこと。内閣府地方創生推進事務局の松平参事官、お願いいたします。

○松平参事官 事務局でございます。資料を1枚を入れてございますけれども、今回の御議論につきましては、東京圏の区域についての千葉県全域の追加指定という議論でございますので、これに伴いまして、成田市、千葉市を含む既存の自治体の関係者との円滑な調整やコミュニケーションを図るという観点から、関係自治体とも御相談の上、事務局において記載の4点を整理してございます。規制改革事項の提案、区域会議の構成員・運営、評価、対外的な説明資料の取扱いでございます。資料に記載のとおりでございますので、御確認いただいた上で御審議いただければと思います。よろしく申し上げます。

○中川座長 ありがとうございます。

それでは、今までの御説明を受けて、伊東大臣から御発言いただければと存じますが、いかがでしょうか。

○伊東内閣府特命担当大臣 知事、どうも御苦勞さまでございます。素晴らしい意欲あふれる、また、うらやむような計画、プロジェクトの御説明をいただいたところでございます。また、国家戦略特区ワーキンググループの委員の皆様、知事を始め、東京圏国家戦略特区の関係自治体の皆様に御出席を今回いただいております、感謝を申し上げる次第でございます。ありがとうございます。

これまで東京圏国家戦略特区は、千葉県におきましては、千葉市、成田市のみを対象区域といたしておりました。昨年8月の国家戦略特区諮問会議における議論を踏まえまして、

国家プロジェクトとして成田空港の機能強化を進めるに当たり、千葉県から、特区の区域を千葉県全域に拡大し、イノベーション促進等に資する規制・制度改革を強力に進めたいという、意欲的な御提案をいただきました。

内閣府におきましては、千葉県からの御提案の実現に向けて、国家戦略特区ワーキンググループでのヒアリング等により、本日御出席の各委員の御指導の下、関係省庁と議論を行ってまいりました。委員の皆様におかれましては、熱心な御審議を賜り、感謝を申し上げます。

そして、本日、熊谷知事から、千葉県における国家戦略特区としての取組の全体像、また、意欲について熱意を感じる御説明をお聞きいたしました。ありがとうございます。

この後、各委員からも御質問・御指摘をいただければと存じますが、まず私から2点、御質問させていただきたいと思えます。

国家戦略特区におきましては、国と指定地域が一体となって規制・制度改革を進めるとともに、全国にその取組・成果を波及させていくことが期待されております。仮に特区に指定された場合には継続的にしっかりと取組を進めていただきたいと思います。その観点からお聞きいたしますが、千葉県として、県内市町村や事業者等とどのように連携を図っていくのか。先ほど若干触れていただきましたけれども、お考えや意欲を伺いたいと思えます。

また、広域的な東京圏におきまして、関係自治体が連携して一体となって取組を進める体制を構築することが重要であると考えております。この点につきまして、東京圏の関係自治体として既に国家戦略特区の取組を進めている千葉県の成田市、千葉市、東京都、神奈川県からそれぞれ御意見があれば伺いたいと思う次第であります。

どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○中川座長 ありがとうございます。

ただいま伊東大臣から御質問があった件につきまして、まず、千葉県から御回答をいただけますでしょうか。熊谷知事、お願いいたします。

○熊谷知事 御評価、また、御質問いただきまして誠にありがとうございます。

まず、市町村でありますけれども、私も市長出身として4年前に知事に就任して以来、千葉県の54市町村全て私自身も訪問して、今まで以上に市町村と県の関係性が密接になってきておまして、今回全域を国家戦略特区にするに当たっても、54市町村、様々なところとの意見交換をして、今まだ出していない案件も含めて色々な意見交換をさせていただいておりますので、この点については今後も市町村としっかりと密に意見交換をしながら、それぞれの地域ならではの提案を引き出せるように我々は取り組んでまいりたいと思っております。

また、事業者につきましても、私自身もそうですけれども、経済界の様々な団体の中で県政の戦略について共有する場を持ってきておりますので、今回、全域国家戦略特区に指定していただけるならば、その点をしっかりと経済界にも説明をして、経済界のほうから、

それであればこういった提案をさせていただきたいというようなことを我々としては引き出してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○中川座長 ありがとうございます。

続きまして、東京圏の自治体の皆様の意見を伺いたいとのことでしたので、千葉県内の自治体である成田市と千葉市から御発言いただきたく思います。

それでは、成田市の小泉市長からお願いいたします。

○小泉市長 成田市長の小泉一成でございます。このたびの千葉県による県全域への区域拡大の御提案については、これまで本市が独自に提案してきた成田空港に関連する規制緩和の実現の後押しになるとともに、成田空港の更なる機能強化を見据え、広域的な特区制度の活用が可能になるものと大変心強く感じております。

本市としましても、更なる機能強化は我が国の成長戦略の一環として、また、空港周辺地域の活性化と雇用の拡大などにもつながる最大の地方創生であると捉えておりますので、区域拡大を契機にその波及効果を空港周辺地域にとどまらず、県全域を始め、東京圏においても生み出せるよう、千葉県、千葉市との連携を一層深め、手を携えながらしっかりと取り組んでまいります。

以上です。

○中川座長 ありがとうございます。

続きまして、千葉市の神谷市長、お願いいたします。

○神谷市長 千葉市長の神谷でございます。千葉市は特区として規制緩和による取組を進めてまいりました。今回の認定申請に当たりまして、千葉県と制度的に連携することができ、千葉市の規制緩和の取組を千葉県内全域へ広げていくとともに、千葉市独自の規制緩和の取組をさらに深めていきたいと考えております。特に成田空港の機能拡張は非常にチャンスだと思っております。グローバル企業からの投資を促進し、国際的なビジネス拠点であります幕張新都心へ更なる企業立地と拠点性の向上に向けた取組を進めていければと思っております。

併せて、新湾岸道路を始めとする広域的な道路網の整備によって、我が国を代表する工業地帯であります京葉臨海工業地帯や、貨物取扱量が全国有数の千葉港のポテンシャルを最大に引き出して、産業の活性化、国際競争力の強化に向けた取組を進めていきたいと考えております。

千葉市としては、今後も首都圏の経済活動を支える重要な拠点として、千葉県全体、ひいては我が国の持続的な発展に、千葉県、成田市とともに貢献していきたいと考えております。

以上でございます。

○中川座長 ありがとうございます。

続きまして、東京都、田中担当部長様、お願いいたします。

○田中担当部長 東京都でございます。千葉県全域が特区に加わることで、世界で一番ビジネスがしやすい環境の整備がさらに進むと期待しておりまして、御説明にありましたイノベーションの促進やグローバル企業を受け入れる基盤づくりなど、東京圏内で連携することでより高い事業効果を発揮できると考えてございます。

○中川座長 ありがとうございます。

続きまして、神奈川県、黄川田担当課長様、お願いいたします。

○黄川田担当課長 神奈川県でございます。このたびは御説明いただきどうもありがとうございます。

本県では、これまでヘルスケア・ニューフロンティア政策として、ヘルスケア分野における海外の先進地域等との間で覚書を締結するなど、企業の海外展開の後押しにつながる国際的なネットワークの構築に取り組んできたところでございます。そのような中、国家プロジェクトとしまして今回成田空港の機能強化が図られることは、本県の取組を推進する契機にもなると考えております。今後、千葉県とも連携しながら東京圏の国際競争力の強化に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○中川座長 関係自治体の皆様、ありがとうございます。

続きまして、委員の皆様からも御質問・御意見を伺えればと存じますが、いかがでしょうか。

それでは、安念委員、お願いいたします。

○安念委員 中央大学の安念と申します。御説明、大変興味を持って拝聴いたしました。その中で、千葉県さんの資料の23～25辺り、創薬等のイノベーション促進という項目を大きく掲げていらっしゃるやいまして、おそらく千葉県さんとか、このあたりでやっていただかなければ、日本ではなかなか難しいかなという感じがいたしまして、その点でも非常な期待を抱いて拝聴した次第です。

ただ、重箱の隅をつつくようなお話をさせていただいて申し訳ないのですが、やや外生的な要因で懸念すべき事情が生じているのではないかなという気がいたします。医薬品にしても医療機器にしても、もちろん国内で販売するのはそれでよろしいのですが、何といたってもビジネスとして成り立つためには、ここ当分は世界最大の医療市場であるアメリカで事業を展開しなければならないと考えられると思うのです。

ところが、懸念されるのは昨今のトランプ関税の話でして、相互関税でカバーされる品目についての長大な別表が大統領令についておりまして、これは私の読み方が間違っていたらどなたか正していただきたいと思うのですが、私が読んだ限りでは、医療機器は分類コードで99というので確か始まるはずなのですが、これはトランプ関税の中ではカバーされていないのです。ところが、医薬品は30何とかというので始まるのですが、これはがっつり入っていると私は思っておりまして、したがって、医薬品については高い関税がかかる。

しかも、アメリカから見て外国から輸入している医薬品によってアメリカ市民が搾取されているという言い方をトランプ氏が第1次政権のときから言い続けている一種の妄想みたいなものでして、彼もおいそれと関税を下げるとは、私はとても思えません。

そうなりますと、懸念されるのは、日本の企業が日本国内で生産してビジネスとして成り立つのかと懸念されるのではなからうか。つまりアメリカで現地生産しないと採算が取れないとお考えになるのではなからうかという懸念がありまして、トランプ関税の話が出て間もなくのことですので、何か具体的な対策がおありだと期待しているわけではないのですが、現時点でもし何かお考えとかお見通しがあれば御教示いただければと存じます。よろしく願いいたします。

○中川座長 それでは、熊谷知事、あるいは千葉県の皆様、いかがでしょうか。

○熊谷知事 御指摘をいただいてありがとうございます。

我々もまさに今日、実は午前中にトランプ関税に対する県庁としての全体会議、対策会議を開いたところでありまして、まだまだ状況をしっかり見極めていかなければならないという部分でとどまっているところもありますけれども、我々とする、国とも連携をしながら、このトランプ関税の中でどのようなサプライチェーンの変化が起きていくかというのは見極めて、適切に対応していきたいと思っております。

そのときも私は申し上げたのですけれども、こちらのピンチも様々あると正直思っておりますけれども、一方で、アメリカを経由することの難易度からサプライチェーン全体が大きく変化する中で、日本を経由するものが増えていく、このチャンスも私はあると思っておりますので、そうしたピンチに対応するということと、逆にチャンスに変えていくという部分でアンテナを高く我々としては臨んでいきたいと思っております。逆に言えば、アドバイスも適宜我々に頂戴できればと考えております。

以上です。

○安念委員 ありがとうございます。大変心強いお言葉を伺いました。

千葉県さんは算出する品目がものすごく幅が広いですから、ピンチもピンチだけれども、アメリカを迂回するというのか、日本を経由していくという可能性は十分生じますのでチャンスでもあるというのは、全くお言葉のとおりと思いました。

○中川座長 ありがとうございます。

ほかの委員の方はいかがでしょうか。

大槻委員、お願いいたします。

○大槻委員 今の安念委員の件にも少し関連するかもしれないのですけれども、トランプ政権の下で今、研究者がアメリカ国内で非常に厳しい環境に置かれている結果、主にはヨーロッパのほうにブレイドレーンが起こっていると言われていたりしているわけなのです。今、投資促進等のお金のフローの話、呼び込みのお話をいただきましたけれども、人の取り込みとか、それに関わる規制の特区制度を使えるかどうか分かりませんが、何らかの規制緩和の要望などというのは今後あり得ないのでしょうか。これは千葉県の熊谷知

事にお伺いするのがよろしいでしょうか。

○熊谷知事 御質問いただきましてありがとうございます。

私どもは成田空港の関係、それから、柏の葉キャンパスであつたり、幕張新都心も含めて今、外国人の方々、これは高度人材も含めて非常に増えてきている状況でございますので、そういった意味では、このトランプ関税の中で今イギリスも含めた欧州のほうに人材がというのは、私も動きとしては報道等でも見聞きしております。我々日本、それから、東京圏、千葉においても積極的にそうしたことは考えていきたいと思ひます。

このあたり、おそらく東京都さんであつたり、国も様々なことを御検討されていらっしゃると思ひますので、私どもは成田・羽田、両方へのアクセスがありますので、しっかりと連携をしながら取り組んでいきたいと思ひております。

○大槻委員 ありがとうございます。

○中川座長 ありがとうございます。

それでは、堀真奈美委員、お願いいたします。

○堀（真）委員 国際的なビジネス拠点を形成、また、国際競争力のある新事業の創出を成田空港の滑走路拡大を契機に進めようという千葉県並びに千葉市、成田市等、関係者の意欲・熱意は非常に伝わる提案だと思ひております。

また、千葉県のポテンシャル、大学等もありますし、様々な産業拠点を生かそうということも理解しますし、近未来技術の実証実験など、実装に向けた取り組みをしようということも非常に有意義なものであると思ひます。

ただ、特区としてエリアを拡大しようというときには県として関わる関係者が増えます。先ほど県内の市町村全てと知事がお話をされたということでしたが、例えば東京大学であるとか、千葉大学であるとか、産官学連携という意味では非常に重要なことだと思ひるのですけれども、大学関係者等とやりとりをされたのかどうかということをお聞きしたいと思ひます。

それから、23ページ、28ページに記載がありますが、一つ一つの項目については分かるのですが、その項目間に必ずしも整合的な関係性がない気がするのです。要は何が言いたいかと言いますと、一つ一つの事業がよくても、全体を取りまとめるというのはガバナンス的にもかなり大変なことだと思ひます。千葉県として、多様な産業、そして、多様なステークホルダー、市町村のみならず産官学をまとめていける道筋といいますか、プランを持たれているのかどうかということも伺いたいと思ひます。

最後に、経済社会効果として挙げられているものが航空関係の旅客数であるとか、取扱量であるとか、そういうものが多くて、もう少し違う、推計が非常に難しいのかもしれませんが、事業効果について具体的な数値を上げることはできないのでしょうか。要は県全体、さらに東京、神奈川とつながっていくとなると、かなり大規模なものになると思ひますので、投入するマンパワー、コストに対して、どれだけの波及効果を得られるのかという視点が重要だと思ひますので、その辺をどのように把握していくのか、考えている

のかというのを教えていただければと思います。よろしく申し上げます。

○熊谷知事 御質問いただきましてありがとうございます。

今回、学術機関に関しては、例えば千葉大学に関しては学長以下、非常に体制を作っていて、かなり緊密な意見交換をさせていただきましたし、がんセンター東病院のほうとも私どもは何往復もさせていただく形で、逆に特区の提案がより一層、こうした研究機関、学術機関との戦略的な対話のきっかけになったという意味でも、我々は大変ありがたいなと今感じております。

それから、数値、KPIの点でありますけれども、私どもは今回、事前に関係団体、事業者へのヒアリングなどを通じてニーズは把握してまいりましたので、産業拠点の形成ですとか、新事業の創出に向けた成果を適切に評価できる指標を私どもは検討してまいりたいと考えております。千葉県は日本の縮図という意味で、あらゆる分野がトップレベルでありますので、できる限り日本全体に好影響となるような先進事例を生み出していきたいと考えております。いい意味で農業ですとか水産業といった一次産業を東京圏の中で一番持っている県でもございますので、そこについてはチャレンジをしていきたいと思っております。御指摘のとおり、広げすぎてしっかりとマネジメントができなくならないように、そこは体制を強化したり、強弱を付けながら臨んでいきたいと思っております。

以上です。

○堀（真）委員 ありがとうございます。

先ほども別の自治体との話であったのですが、いくつかのフェーズがあると思えますので、仮に特区に指定された後、どういう段階に何をして、どこが課題としてあるのかを検証して、最終的にどのように向かっていくのか、メリハリを付けた形でプランを作っていただければと思います。

○中川座長 ありがとうございます。

安田委員、お願いします。

○安田委員 熊谷知事、どうもありがとうございました。私のほうからは二つ質問があります。

一つ目は、東京圏全体での取組が進めば進むほど効率性が高まっていき成長に寄与する、そこは非常に心強い一方で、都心部を中心に地価高騰の問題も起きています。千葉県でも取組が進めば進むほど、ある意味で都心部と同じような住宅問題が起きるかもしれない。世界中で都心部の地価高騰やオーバーツーリズムといわれる過度な集中に弊害が起きていて、それに対して、特区を活用したプラスの面だけでなく、懸念されるマイナス面に対しても何かしらの対策、あるいはお考えがあればお聞かせいただきたい。これが1点目です。

2点目について、熊谷知事ご自身は、千葉市において既に国家戦略特区に積極的に取り組まれております。今回、市ではなくて県ということなのですが、過去の経験から、千葉市で行っていた様々な取組と比べて県で行っていくこととの難しさであるとか、千葉市での経験を生かしていける分野などについて関心があります。属人的な質問になってし

もうかもしれないのですけれども、特区の今後の見通しを占う上でも、私自身は知事の過去の経験というのはプラスに働くのではないかと感じているので、そのあたり、今の時点でお気づきの点があればお聞かせいただきたいです。

私からは以上です。

○熊谷知事 御質問ありがとうございます。

地価高騰につきましては、まさに世界中の首都近辺が抱えている大きな課題だと思っております。まず、千葉県に関しては1都3県の中では土地の値段が一番安い、ここが有種、カリフォルニアに対するテキサスみたいな形で我々も企業にはPRをしておるのですけれども、そうは言いながら、我々も土地の上昇幅としてはかなり高いものがあります。

私どもが今回提案をしている中で、例えば成田空港周辺ですとか、アクアライン着岸地は、本来であれば人口が減少している地域になります。東京圏から若干外れていく、そこに成田空港という装置があったり、もしくはアクアライン着岸地は羽田空港の対岸という地理的な優位性がある。そういう意味では、私は地方創生の中でこういう一つのキーによって本来人口が減少しかねない地域に活力をもたらしていく、日本を代表する産業の集積を図っていくという意味においては、私どもが背負っている役割というのは東京圏の責務と地方圏としての責務の両方を背負っているのが千葉かなと思っておりますので、その点を意識しながら臨んでいきたいと思っております。住環境に関しては、成田も含めて我々としての大きな戦略の中に位置付けてきております。

それから、私は市長時代にも千葉市での国家戦略特区を進めてきた側として、今度は知事という立場から感じる難しさという点で言えば、市ごとに意欲であったり、積極性に違いがあるということ、それから、市長自身が経済なのか福祉なのか、どこを大事にしているかということによって、産業や国家戦略特区に対する温度差というのはある部分が一つ難しいところかなと感じています。

一方で、何がいいかと言いますと、行政区域を超えたゾーンで戦略がつくれるところが大きいと思っております。例えば成田市自身は非常に意欲的な自治体であります。成田空港だけでも実は成田市と芝山町と多古町という1市2町で構成している状態になりまして、広い意味でのグレーター成田という9市町になるのです。それぞれの市町では到底国家戦略特区を生かした戦略を立てきれないのですが、そこに県が入ることによってゾーンで戦略がつくれるところが、我々の広域自治体としての面白さと、逆にそれをやらなければいけないと思っておりますので、そういう点で市長経験を生かしながら、今、県が少し水平展開をしたり、もしくは県と市の権限を越えた垂直での統合を進めているのが千葉県の特徴かなと思っております。

○安田委員 どうもありがとうございました。

広域での波及効果というのが非常に期待できるお答えだったかと思えます。

○中川座長 それでは、伊東大臣のほうで、お時間が50分ぐらいにということですので、大臣のほうから御発言があればお願いできればと思います。

○伊東内閣府特命担当大臣

このたび熊谷知事、また、東京圏国家戦略特区の関係自治体の成田市、千葉市、東京都、神奈川県、それぞれの皆様から意欲のあるお話をお聞かせいただきました。説明、質疑、本当に中身の濃いものであったと思う次第であります。

また、知事からのお話を伺って、その感想でありますけれども、本当に意欲的で、国家戦略特区を活用して目指す姿というものが、今日の資料のお話も含めてご説明いただいたところでもあります。全体像がある程度把握できたと思うところでもあります。

また、成田市、千葉市、東京都、神奈川県の関係自治体と連携の方策を含めた今後のビジョン、そして、取組を進めるに当たっての熱意につきましてもお伺いすることができました。みんなでよくなるという意欲のあふれるものでありました。

私は、友人も千葉に住んでおりますし、私が釧路の市長をしておりましたとき、私の地元には幣舞橋という大きな橋があるのですが、そこにブロンズ像が4体ありまして、八千代市には村上橋に2体のブロンズ像がありまして、それがきっかけで友好都市になって訪れるようになり、スイカだとか、八千代のナシだとか、落花生とか、本当に素晴らしい農作物もたくさんできると思いますし、水産物も豊富なところでもあります。ですから、国際空港として、成田空港が中心となって、いい方向に進むわけではありますが、海外から来るお客様に対しても十分おもてなしのできるポテンシャルを持った素晴らしい地域だなという、そんな思いをもっているところでもありました。

国家戦略特区でありますから、これからの話になるわけではありますが、益々御発展されることを御祈念申し上げますし、先ほど創業の話も出ておりましたが、これから日本の目指すべき技術、そして、進歩に大いに寄与できるお話かなと思って聞いていたところでもあります。我々もビジネス拠点を一生懸命応援しますので、どうぞ頑張ってくださいと思います。

大変申し訳ありませんけれども、中座させていただく御無礼をお許しいただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○中川座長 大臣、ありがとうございました。

それでは、引き続き委員の方の質疑を続けたいと思います。

大槻委員、お願いします。

○大槻委員 二度目で失礼いたします。先ほど皆さんのお話を伺っていて、二つほどですが、堀委員が言ったメルクマールのような話の続きになるかもしれません。規制改革会議もこの国家戦略特区もいずれも悩みというか、課題としては、こうしてお取組んでいる改革について定量化した成果がなかなか出しづらい、経団連さんとかも色々と定量化にトライしていただいていると理解しております。千葉県さんのほうか、あるいは市のほうでも結構なのではございますけれども、規制改革に関するベネフィット、GDPに対してでも結構ですし、そういったものの定量化のようなことをされたこと、トライしたことなどがあれば教えてください。

もう一つは簡単で結構なのですが、先ほど大臣からもみんなでよくなるとういうこと、非常にいい発想で、是非と思っております。一方で、広域というか、他県とやっていくということだと、すみ分けの問題というか、同じことをやりたいといった場合に、どういう形でそこをすみ分けされるのかということも教えていただければと思います。

以上です。

○熊谷知事 我々はこれからでありますけれども、例えば外国人材の活用状況ということであれば、そうした部分で外国人材としての事業者がどのように増えたかとか、もしくは一定の人材レベルの外国人材をどれくらい受け入れたかとか、そういったものは見ていこうと考えております。おっしゃっていただいたとおり、国家戦略特区による投資効果というのを定量化する、見える化するというのはなかなか難しいところがありまして、そのあたり、逆に色々な方の御意見いただきながら、しかし、このあたりを見なくてはいけないのではないかなというような部分は、是非また御教授いただければ大変ありがたいと思っております。

○大槻委員 ありがとうございます。

これだけ具体的なメニューを出していただいているので、やり方次第では、こういった皆さんの努力がアウトカムで定量的な形で出ると非常に面白いですし、先行事例としていいアピールになるのではないかと思った次第です。

○中川座長 ありがとうございます。

それでは、落合委員、お願いします。

○落合座長代理 色々御説明いただきましてありがとうございます。

今回取りまとめていただいている内容が、改めて成田空港を始めとする物流、また、移動に関する拠点を形成していくということで、東京圏の中心となるような一つの入り口を作っていくということだと思います。また、成田空港が日本の顔の一つであるということは間違いのないところですので、そういう中で、日本全体にも波及をしていくことを取組として目指されているということだと思いました。

また、先ほどの御説明の中でも地域、特に必ずしも都会ではないような場所も多くある中で、そういった取組も全国に波及するようということ、そういった意味では、特に今回指定される千葉県における産業集積もそうですし、東京圏における産業の下支え、さらに全国における規制改革等を含めた影響がある取り組みであり、また、物流機能を含めた波及的経済効果をねらわれているということで、そういった部分については非常に評価すべき御提案ではないかと思いました。

その上で、私のほうからいくつかお伺いしたいと思います。

一つが、先ほど知事がおっしゃられていた中で、特に県と市は一体になっていくということで、いくつかの市町村で一体になって取組を進めていかれるという点です。これは規制改革を進めるための推進体制としては、北海道、札幌においてもかなり一体的なチームを形成されておりましたが、それと比較できるような取組を今後作っていくのではない

いかとも思いました。この点は、推進体制という中で最も重要な点ではないかと思いましたが、先ほどお話しもされていましたが、多分お考えのところが更に色々あると思いますので、可能な限り、さらにどういうところをねらわれているかを教えていただきたいということが第1点です。

第2点としましては、先ほど来、ほかの委員からもいくつか御意見が出ておりましたが、物流や、成田空港を中核とする機能の点については、それ自体一つ分かりやすいかと思いますが、産業クラスターや、また、医療や、先ほど知事がおっしゃられた農業ですとか、こういった空港そのものに直結するわけではない、もちろん物流的に優位な立場にあるかと思いますが、必ずしもそれだけではないような事業をどのようにして東京圏の中でうまく形成していくかが大変重要ではないかと思っております。

規制改革のための仕組みが国家戦略特区であります。産業育成のためのプランや、その中で多分KPIを設定するなど、そういった議論も先ほど来出てきていたと思いますので、どのように地域と連携をしながら新しい産業を作っていくつつ、さらに東京圏や、日本の産業政策にどう影響を与えていくかについて改めてお伺いしたいと思いました。

以上2点です。

○熊谷知事 御質問ありがとうございます。

まず、県市関係ですけれども、千葉県と政令市の千葉市に関しては、神谷市長がお見えでありますけれども、知事、千葉市長をトップとする県市連携会議というのを私が就任してから設けて、県と政令市間の様々な課題を一体的に取り組んでいくということで今動き出しております。今回、特区の関係でも千葉市さんとは医師臨床研修における基礎研究医のプログラムの要件の緩和というものが出来まいりましたし、また、成田空港に関しても先ほど申し上げたとおり、広域的な意見交換をさせていただいております。その中で、成田市さんとはEU向けの衛生証明書の発行の迅速化をそれぞれで共同提案したところがあります。

例えば千葉県は京葉臨海コンビナートという日本を代表するコンビナート地帯を持っております。この千葉県というのは京葉臨海コンビナートがあるがゆえに、CO2排出量は産業部門1位でございます。そういった意味では我が国のカーボンニュートラルを進めていく上では、京葉臨海コンビナートのカーボンニュートラル化というのは避けて通れません。我々は今、沿線市、関係企業とともに、京葉臨海コンビナートのカーボンニュートラル推進協議会をやっております。こういう中でも先端的な事業提案の中には特区の提案に入ってくるようなものが出てくるのではないかと考えております。京葉臨海コンビナートに関しては、水素やアンモニアの活用の中では、京浜の工業地帯との連携というのも必然的に出てくる話でございますので、そういった中で東京圏という枠内で我々はしっかり連携をしていきたいと思っております。

アクアライン着岸地に関しても、木更津市、それから、袖ヶ浦市、あるいは君津市ともある種関係してくるところにもなってきておりますので、こうしたところ、我々は県とし

て、広域自治体として、広域的な観点から進めていきたいと思っております。これで答えになっておりましたでしょうか。

○落合座長代理 ありがとうございます。

そういった広域で連携をしていく点もそうだと思いますし、先ほど来、規制改革のレベルで実施されたいことについて調整していくのかというお話もあったように思っていたのですが、産業政策の面でも、より一層対話を進めていただければと思います。ただ、千葉県自体が独立に提案をできることも、それはそれで重要なことだと思いますが、そこを両立させていくことが今回の指定の一番の課題かと思われましたので、是非そういったところは意識して取り組んでいただければと思いました。

以上でございます。

○熊谷知事 ありがとうございます。

○中川座長 ほかに発言を求める委員はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、熊谷知事、東京圏国家戦略特区の関係自治体の皆様、伊東大臣、ワーキンググループの委員の皆様、ありがとうございました。

本日、熊谷知事から御説明いただいた御提案は、成田空港の機能強化を契機として、東京圏の国家戦略特区の社会的経済的効果をさらに高めることにつながる重要な取組であると承知しています。

他方、本日の千葉県のプレゼンに関しましては、伊東大臣及び各委員の皆様から、一つは、千葉県内の市町村、事業者、首都圏の関係自治体の連携を一層推進していただきたいという御指摘がありました。さらに今回の千葉県の提案というのは、非常に総合的な提案だという特徴があって、もう一つはグローバルなインパクトを与えたり、あるいは逆に与えられたりするような提案になっているかと思えます。そういう意味で、そういうインパクトのある御提案をいただいているということで、国際的な関税政策などのグローバルな影響を見極めつつ、規制改革の推進ですとか、事業の推進を図っていただきたいというのが1点でございます。

それから、総合的な提案になっているということから、これにつきましてもビッグピクチャーみたいなものを作って、それに基づいてマネージをしていただきたい。基本的には産業の国際競争力を推進していただくだけではなくて、首都圏の就業者の非常に豊かな居住地にもなっているところもございますので、そういった住環境、あるいは他の項目についても目配りをしたマネージメントをお願いしたいということでございます。

それから、KPIですとか、目に見えるアウトカムでマネージメントを進めていくという点につきましても、千葉県様だけではなくて、内閣府、それから、ワーキンググループの我々委員のほうで協力しながら、どういうマネージメントをすることが客観的で公正なのかということにつきましても一緒に検討してまいりたいと思っております。

そのような重要な指摘がありましたので、千葉県と関係自治体におかれましては、こう

した指摘を十分に踏まえて更なる取組を進めていただきたいと思います。

それでは、本日の特区ワーキンググループヒアリングを踏まえて、特区ワーキンググループとしては千葉県の御提案に対してさらに検討を進めてまいります。

ほかに発言を求められる方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、大臣のほうから先ほどお言葉もいただいておりますので、座長から事務局に進行をお返しします。

○水野参事官 皆様、本日はありがとうございました。

以上をもちまして、国家戦略特区ワーキンググループヒアリングを終了させていただければと思います。ありがとうございました。